



新年号

「雲 晴」第四十一号

令和四年一月一日発行

貞林院瑞正寺  
 〒125-0041 東京都葛飾区東金町五-四六-一五  
 電話(03)3627-3415  
 FAX(03)5699-1591-15

謹んで

### 新春のお慶びを 申し上げます

一昨年より世界中に感染を広げました新型コロナウイルスも日本では昨年秋よりやっと減少傾向となりました。ワクチン接種の効果、感染対策の徹底、人々の感染防止に対する意識など様々な要因はあるかもしれません、いずれにしてもマスクの着用や不要の外出自粛

など日本人の真面目な国民性も要因の一つではないでしょうか。年末年始の人出が今後どのように影響してくるのか分かりませんが、どうかこのまま収束に向かってくれることを願うばかりです。

さて今年は寅年ですが、中国では虎は「百獸の王」と言われ、その勇猛な姿から権威や威厳の象徴とされております。また虎にまつわる故事・諺

も多く、その中で「三人成虎」というものがあります。

中国の戦国時代に魏の皇太子が別の国に人質に行くことになり、そのお供としてついて行くことになつた大臣が国を出る時に国王に「一人や二人の人間が人の多い市場に虎が出たと言つても誰も信じないでしようが、それが三人ともなると信じてしまうものです。留守中に大勢の人から私への誹謗中傷を聞いてもどうか信じないでください。」と伝えます。

これを聞いた国王は快く承諾しますが、留守中に何人の人間からの中傷を耳にして、ついに大臣を国に戻すことはなかつた、という故事からなる諺です。三人が同じ事を言えば、それが例え事実無根の内容であつても眞実と同じ力を持つてしまうというお話です。

昨年から始まつた新型コロナのワクチン接種については当初、様々な噂が流れました。国や製薬会社による陰謀説から科学的根拠のないものなど多くの人々が不安を覚え、接種を躊躇させる原因ともなりました。このようなデマは災害時や大事故の際にも流れたりするもので、人間の不安な心に入り込み易いものなのでしょう。

これから益々インターネットによる情報化社会は進みますが、過剰な情報に対する取捨選択は我々自身が判断をしなければならない時代となります。

## 唱歌のふるさと 童謡のくに⑨

著：佐山哲郎

### 哀しい辛い子守唄

子守、と聞いて人は何を思ひ浮かべるだろうか。  
＊子守でもしていなさい  
＊今日は一日、留守番ついでに子守ですよ  
かつて、こんな風な会話がよくあつた。

しかし、それ以前には職業としての子守があつた。職業とは大袈裟だが、母親が働く（多くは住み込み）家あるいは店で、年齢で子守をさせられる。

しかし、それ以前には職業とされる当人の心境である。自分もまだ小学校に行くような年齢で子守をさせられる。

だから辛い。

差別の構造自体に深い問題が横たわつていた。

あるいは店の主人夫婦の赤ん坊を預けられる。子供一人の住み込みもある。子供一人でも飯の分が浮くから、貧しい親は喜んで奉公に出した。もちろん通りの子守りもあつた。単に貧富の問題だけでなく、社会の差別被

おきやがり小法師に豆太鼓の里のおみやげなにもろたでんでん太鼓に笙の笛

この歌は東京で採取される子守歌の代表である。

宝暦、明和の頃からと思われる古い歌である

寝ろてばや

## 一口法話



### 「絵に書いた餅? (理想と現実)」

健康とは、「身体も精神もそして社会において良好であること」で、その三拍子がそろうのが理想です。でも、健康自慢な人でも、健診により身体に何らかの所見が見つかる場合があり、また心の問題や家族間、更には職場での人間関係等、様々な不安も含めると、今、「健康です」と胸を張つて言える人がどれだけいるでしょうか?

法然上人も、理想と現実に悩まされました。仏道者の理想つまり、三学（戒・戒律を守り、定・心を静め、慧・智慧を究める）に真摯に取り組まれたお方ですが、「凡夫の心は物にしたがって、うつりやすし」と嘆き、「我等がごときは、すでに戒定慧の三学の器にあらず」と現実の我が身に深く悩まされました。いくら立派なみ教えも、それを修することが出来なければ、絵に書いた餅、理想に過ぎません。そ

**法然上人の御生涯⑫**

前号でご紹介した三祖良忠上人は優れた弟子を育てました。主な方々は尊觀上人（名越派）・性心上人（藤田派）・良曉上人（白旗派）・然空上人（一条派）・道光上人（三条派）・慈心上人（木幡派）などです。宗派の中には浄土宗を独立した宗派各々多くの書物を著すなど活躍されました。この中の良曉上人が浄土宗七祖となられたのが四祖となり、五祖蓮勝上人・六祖了實上人へと受け継がれ、浄土宗の教えはますます広まっていきました。常陸国久慈郡岩瀬（茨城県）の城主

**法然上人の御生涯⑬**

しかし、良忠上人の高弟達がそれぞれ流派を名乗つてることからもわざとまとまることがなく、教えも統一性を欠いている状態でした。また他の二五歳を過ぎた頃から、日本全国の名僧を訪ねて一三年にわたつて遊学し、仏教各宗派のみならず和歌や神道などに関しても学ばれ著作も残しています。常陸国に戻られた後は常陸国を中心に布教をする傍ら多くの著作を執筆されました。



## 「虎」

故林 錦洞書

貞林院瑞正寺 住職 林 清方

金文書体で虎が勢いよく立ち  
上がっているような姿です。

この作品は先代林錦洞が遷化  
しました平成二十一年秋のもの  
で最後の遺墨の一つです。先代  
は毎年秋に銀座にて社中展を開  
催しており、開催日の五日前に  
突然心臓発作によりお浄土に旅  
立ちました。翌年の平成二十二  
年が寅年そのため題材としたもの

応永二二年（一四一五）弟子の聖聰上人に請われ江戸に移り、小石川に聖間庵（現宗慶寺）という草庵を構え、晩年を過ごされました。そして応永二七年（一四二〇）八〇歳の聖間上人は死期を悟られ、身なりを調べ、弟子達に最後のお説教をした。聖間上人は死期を悟られ、身なりを調べ、弟子達に最後のお説教をした。聖間上人は、仏教全体における淨土宗の教えを示すことで、他宗に対する淨土宗の地位を向上させるなど多くの功績を残されました。その中で最も大きな功績は、僧侶になるための五重伝法と呼ばれる伝法制度を



聖間上人には数多くの伝承が残されています。晩年を過ごされた聖間庵は今でも現存している極楽水と呼ばれる泉の脇にありました。この泉は聖間上人が龍女に仏教の教えを説き、そのお札に授けられたものと伝えられています。また有名なものでは『番町皿屋敷』で亡靈を鎮める人物として聖間上人が登場しています。

（総本山知恩院布教師会ホームページより）

と思われます。この年の書展は何故か八点と例年より多くの出品があつたためお弟子さんたちも驚いておりました。本人はこれが最後の書展になるとは夢にも思っていなかつたでしようが、今思えば書家として最後の力を出し切つたのかもしれません。

昨年十月に十三回忌を勤めましたが、コロナ禍のため浄土宗関係諸大徳並びに書道界の先生方にお声かけができなかつた事が大変残念でした。至心合掌

確立したことです。この伝法制度をもとに近世末より、一般的の在の方々に浄土宗の教えを伝えるため「結縁五重」が実施されるようになりました。このような功績から聖間上人は、浄土宗中興の祖と崇められています。また聖間上人には数多くの伝承が残されています。晩年を過ごされた聖間庵は今でも現存している極楽水と呼ばれる泉の脇にありました。この泉は聖間上人が龍女に仏教の教えを説き、そのお札に授けられたものと伝えられています。また有名なものでは『番町皿屋敷』で亡靈を鎮める人物として聖間上人が登場しています。

そこで、「我が心に相應する法門」、「我が身に堪えたる修行」として「我に身に堪えたのが“南無阿弥陀仏”とお称えするお念佛でした。理想的な永遠の健康を得る人はなく、理想的な仏道を実践できる人も不可能に近いでしょう。思うままにならないことの多いこの世界を離れ、身も心も安樂なる、いわば理想的な世界（極楽淨土）に往き生まれさせていただくことこそ本当の幸せなのです。いかなる縁でこの世に別れを告げることがあろうとも、必ず阿弥陀様が私のお念佛の声に応えて、極楽淨土へ迎えてくださるのであります。阿弥陀様の御救いを信じお念佛を申すことが大切です。

## 謹賀新年

寺内一同、おかげさまで元気に年を越すことができました。

今年も心を新たに精進いたしますので、檀信徒の皆様におかれましては、今後とも寺の護持興隆にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寅年の守り本尊は、昨年の丑年と同様に虚空蔵菩薩です。虚空蔵とは宇宙のように無限大の智恵と慈悲を備えた藏を意味しています。それらをこの藏から取り出して人々に与えて下さる菩薩様です。虚空蔵菩薩さまのご加護により、今年一年皆さまが平安に過ごされることを心より祈念申し上げます

令和四年壬寅 元旦

貞林院瑞正寺

住職 林清方  
副住職 林良政  
法類総代 林英道  
同寺総代世話人一同



春

## \* 靖国神社 献茶式に参加 \*

毎年十月四日には靖国神社拝殿におきまして裏千家元家元・千玄室大宗匠の奉仕による献茶式が執り行われています。これまでも寺報にて何回かご紹介しておりますが、千氏は先代林錦洞と海軍同期であったため長く交流がありました。そのような縁からここ数年は海軍同期の遺族会として毎年お招きを頂き参列しております。

今年も新型コロナ感染防止のため昨年に続きごく限られた方々のみの参加となりました。

今年も新型コロナ感染防止のため昨

本年の行事につきましては、下記のとおり予定しております。近づきましては、お誘い合わせの上ご参詣ください。  
\* 春・秋彼岸会法要 三月二十一日(月)  
施餓鬼会法要 五月 十四日(土)  
七月お盆法要 七月 十日(日)  
八月お盆法要 八月 十三日(土)  
寺報にてご案内をしております。お中日に塔婆回向をしておりますので、塔

〔拝殿内にて濃茶と薄茶を謹呈される大宗匠〕



〔石碑を前に大宗匠と一緒に〕

大宗匠は今年九十八歳となります。間近で拝見する凛としたお姿と美しいお点前には敬服するばかりです。当日は献茶式後に靖国神社敷地内に大宗匠が揮毫された石碑のお披露目と植樹も行われました。石碑には「和の心」とあり、これは茶道を通じて世界に平和をと常に説かれている「一碗からピースフルネス」の精神が刻まれているものと思われます。戦死された多くの同期の桜に対しての思いかもしれません。毎年参加させて頂いているこの献茶式ですが、あらためて平和の大切さと二度とあのような戦争を繰り返してならないということを教えられる思いです